

# 旭川市手話施策推進会議内容報告書

[令和5年度 第2回 旭川市手話施策推進会議]

開催日時 令和5年12月19日(火)  
午後6時45分～午後8時00分  
開催場所 旭川市7条通9丁目  
旭川市新総合庁舎7階 多目的室

会議の名称	令和5年度 第2回 旭川市手話施策推進会議	
出席者 委員(6人) 事務局(4人)	栗田克実会長, 中川雅敏委員, 橋本由美委員, 菅原さとみ委員, 山村千景委員, 飛弾野弓子委員 高越福祉保険部次長, 遠藤障害事業係長, 新井障害事業係主査, 障害事業係田中	
傍聴者数等	1人(会議は全体を通して公開)	
議事の内容 議題1 議題2	令和5年度意見交換会の開催について 手話劇祭の現状報告について	
審議内容及び 主な意見等  (開会)  議題1「令和5年度意見交換会の開催について」		<p>&lt;事務局紹介&gt;</p> <p>会長 議題1について, 事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 [資料1～2及び当日追加配付資料に基づき説明]</p> <p>会長 意見交換会について資料1及び資料2のどちらの案で実施していくのか, 日程等内容について, 質問・意見があれば, 挙手で発言をお願いします。</p> <p>E委員 開催日について, 3月30日は年度末で一般の方も忙しい印象があるので, 3月23日が良い。昨年度の意見交換会も3月25日に実施したので, その日あたりの方が良いと思う。</p> <p>B委員 前回と同じような形で3月23日の方が良いと思う。私は3月30日は忙しい。</p> <p>C委員 どちらの日が良いとはいえないが, これまでも3月25日あたりで実施して人が集まっていたのであれば, 3月23日が集まりやすいのではないかと。</p> <p>D委員 どちらの日が良いとはいえないが, 月末よりも3月23日の方が良いと思う。</p> <p>会長 それでは3月23日でよろしいか。私も日程調整する。 意見交換会の実施形式を第1案と第2案のいずれかで決めていきたい。どちらの案が良いか意見ををお願いします。</p> <p>B委員 私は第2案が良い。第1案は以前に実施しているので, 参加している人はその記憶もあると思う。今度はワークショップを実施したら良い。人数が50人程度は</p>

		やむを得ないと思う。
	C 委員	私は前回の会議からワークショップをやりたいと思っていたので第2案が良い。消極的な人が集まるグループが出ることも想定して、1グループの人数を増やして組数を減らしても良いと思うし、組数を減らさずに参加人数を増やしても良いとも思う。
	E 委員	私もワークショップ形式で良いと思う。より近い距離でいろいろな立場の人で話し合いができれば良い。
	A 委員	今まで例のないワークショップが良いと思うが、人数構成のバランスを考えなければならない。ろう者を各グループに配置する場合、通訳者の配置も気をつけて進めなければならない。
	D 委員	私もワークショップが良いと思うが、参加人数が50人と限られているので、講演のみでもいいのでオンラインにしてはどうか。
	C 委員	終わった後のアーカイブで観れる方が良い。その中でワークショップで話し合っている様子も交えて、話し合った結果もアーカイブで観れる方が市民が参考にするには良いものになると思う。
	会長	動画編集をすることとワークショップの結果をテキストスタイルでまとめて、ワークショップや発表の様子をダイジェストで映す。映像も限りがあるので検討となる。私もワークショップが良いと思うが、複数回やった方が良い。課題抽出するのであれば1回きりの実施はもったいないと思う。令和5年度と令和6年度の2回は最低実施した方が良い。これまでの意見交換会では出てこなかった意見も出てくるのではないかな。今回の意見交換会でできなかったことは来年行っていくようなシリーズ化で実施してはどうか。各グループにファシリテーター、記録、発表の役目をつくれるようなバランスの良いグループ編成や参加人数を柔軟に考えていきたい。第2案でいくとすると、内容を絞り込んでテーマ設定を行ってはどうかな。講演の内容とリンクしたテーマとそれ以外の内容、日常生活や自助・共助など2つのテーマで2時間実施してはどうか。 これまでの推進会議の経過をふまえて、大テーマは防災や緊急時、小テーマは日常生活での困っていることや伝えたいことなどを発信し合って共有する。ワークショップで出てきた意見を記録しておき、次年度のワークショップへ活かすような構成で進めてはどうか。各委員の意見をききたい。
	A 委員	ワークショップが2時間程度とあるが、8人グループで6組の方が発表の時間が短くなるので、ワークショップへ充てる時間が多く持てる。
	会長	今の意見を踏まえてワークショップの組数を考えて調整してもらおうので、事務局に一任でよろしいかな。
	B 委員	私のイメージのワークショップは、2回実施は賛成である。1回目は経験型にする。2回目は会話型にする。1回目の経験型というのは、ろうあ者が災害で困ること、例えば、西日本豪雨の時にろうあ者がボランティア団体を立ち上げて、手話のわからない人のところへ行って支援をした。ろう者でも身振りでも通じるという効果があった。手話通訳にこだわらず、手話で会話してみたいという人でも身振りで経験してもらおう。そして2回目では行き詰まったことを話し合うというイメージで進めると良いかなと思う。経験型に発表は必要ない。2回目は発表が必

		<p>要になる。そういうやり方はどうか。ろう者は話し合いが苦手である。一緒に経験してお互いに気づくこともあるというワークショップが良いと思った。例えば、「旭川に地震が起きた。そのテーマについて話し合う。手話通訳もない。どうするか？」ということを経験する。お互いに気づきがあったら2回目で話し合いのワークショップを行う。</p>
A 委員		経験型はワークショップではない。
B 委員		ワークショップにもいろいろな形がある。話し合いばかりではないと思う。
A 委員		グループごとに分けたテーマを設定して行うのか。
B 委員		2回実施しても良いということだが、1年に2回やるということか。
会長		1年に1回で、1つの回の中で前半と後半に分けて実施する。
C 委員		ワークショップの各グループに通訳は必要だが、通訳が間に入ってしまうと話が通じてしまうので、通訳を介さないでろう者とコミュニケーションをとる経験をするのはとても良いことだと思う。その経験後に災害の時にはどのような支援が必要かという話し合いをする時にも、よりリアルに理解していけるのではないかな。
D 委員		市民対象というところで考えていたのが、手話のわからない人たちが実際に身振り手振りでコミュニケーションをとるという経験ができれば良い。
E 委員		グループワークの中で災害時、緊急時、困りごとそれぞれの手順書をつくって発表するのはどうか。
事務局		<p>オンラインは今後検討していかなければわからない。設備的なものは可能でも、映像に顔を映せるかどうかということもあるので検討させていただきたい。</p> <p>ワークショップに関しては、募集をかけて参加者の割合や当日配置できる通訳者の数、休憩時間を含めて総体的に考えさせていただきたい。</p> <p>2時間程度という時間の設定も今後柔軟に考えていきたい。</p> <p>当日具体的に話し合うテーマについてももう少し議論していただければ、準備がしやすい。</p>
会長		経験型の具体的なイメージをお伝えいただきたい。
C 委員		できるだけ自然発生的なコミュニケーションではなく、意図的に仕掛けていくことを考えていくと、例えば災害であれば、聞こえる人へ「ケガの治療ができる場所やお弁当の配布という情報をろう者へ伝えてください。」とテーマを渡す。そこでろう者へなんとか伝えてもらうというのはどうか。私は経験でそこで一旦終了してもよいと思う。せっかくグループ分けするので、グループごとに違うテーマを充てるのはどうか。
会長		課題解決型ということか。
C 委員		胆振東部地震でスマホは使えたが、充電できる場所がわからなかった。そこで充電できる場所はここだという情報が飛び交ったそうである。疑似体験をしながら問題解決に向けて話し合っていく。

議題2「手話劇祭の現状報告について」	会長	私は、胆振東部地震の時にどのようなことが起こったかを具体的に知りたい。
	A 委員	ブラックアウトの時にろう者の情報と聞こえる人の情報が違っていた。それぞれの立場で話ができれば良いと思う。
	会長	今年は胆振東部地震の時の経験を共有して、令和6年度は体験型として疑似体験をやってみる。複数年かけてやってみるのは前進だと思う。旭川市民ニュースにも取り上げて欲しい。一部の話し合いにはとどめないで全市的に広げていくのがすごく大事である。
	C 委員	全国にアピールできるぐらいのものになっていける。私達で共有ではなくて全国で共有する気持ちでやって良いと思う。
	A 委員	ホームページにアップしておけば全国から見てもらえる。
	事務局	1点目は過去の災害での経験をテーマにする、2点目は日常生活の困りごとでのテーマでワークショップということによろしいか。
	会長	大テーマは災害であり、それに付随してくる日常生活の困りごと、そして自分達は何をやって何を助けることができるか、自助、共助ということに寄せていただくというような構成にしていきたい。そして必ず令和6年度もやってもらいたい。
	会長	議題2について、事務局から説明をお願いします。
	事務局	[資料3に基づき説明]
	A 委員	山口県萩市へ視察に行かれた方はどなたか。
	事務局	今年度開催された萩市への視察は私遠藤が予定していたが、当日本州を中心に強風に見舞われ羽田までの飛行機の到着が遅れた。当初乗る予定であった山口行きには乗れなかったため、次の便に振り替えたが機材トラブルで欠航となり、萩市へたどり着くことが物理的に難しかった。大変申し訳ないが、萩市と話し合いをして視察を中止させていただいた。航空事情ということでご容赦いただきたい。萩市からは開催にあたっての運営の情報をいただいているので、来年度開催に向けて情報共有しながら進めていきたいと考えている。
	会長	資料3について、質問・意見があれば、挙手で発言をお願いします。
	A 委員	実行委員会の人数は何人を想定されているか。
	事務局	人数というよりも団体数で考えていて、聴覚障害者団体や障害者支援団体から代表者を出していただいて構成していくことを意味している。
	A 委員	団体ということはわかったが、人数はどの程度を考えているのか。障害者団体とはどこまでの範囲を想定しているのか。
事務局	まだ決まっていないのでこれから検討していく。	
B 委員	実行委員会の担う範囲をお聞きしたい。	

その他	会長	萩市の手法を引き継いでこれから考えていくことになるであろう。
	E 委員	実行委員会が設立されてからパフォーマンスする人を見つけるとか、劇団を見つけることになるのか。
	事務局	予算の関係もあるので想定案をある程度は整理しているが、最終的には実行委員会の中で決定されることになる。
	会長	手話劇祭とこの会議との関連性はどのようなものか。
	事務局	前回の会議でお話しさせていただいたが、実行委員会で決めたものが具体的に覚えてきたら、委員の皆様には書面などを通じて御意見をいただけたらと思う。
	会長	次にその他であるが、委員から何かあるか。
	C 委員	以前に学校で手話をカリキュラムに入れてはどうかという話があったが、全国で手話をカリキュラムに取り入れている大学、慶應義塾大学、東京大学、放送大学など10校ほどあると聞いている。少なくとも1科目はろう者、手話言語を第1言語とする人が講師をしているという条件付きで全校の誰でも受講できる。短期間のものや聞こえる人が講師をしているものを含めるともっとたくさんあると思う。それを聞くと旭川は遅れているのではないかと思う。
	会長	現在は学生が忙しすぎるので科目の見直しをしなければならない。私の大学の学長へお伝えする。
	C 委員	ろう者が旭川市内での就職に困っている。その理由の大半が「聞こえないなら難しいな。」である。これはおそらくコミュニケーション問題だと思う。聞こえないことが理由で、いくつも面接を受けても断られてようやく以前にろう者を雇ったことがある会社で雇ってもらえる状況も見受けられる。その職場に手話でコミュニケーションができる人がいたらどうなんだろうと思う。旭川市内で手話言語として活用できる人を育てることで、あちこちで手話のできる人が働くことができるとろう者の就職先の選択肢が広がる。学校の授業で手話を学ぶ機会が増えるとより手話を使える人口が増えるし、就職する条件の利点になれば良いと考える。
	B 委員	手話言語法が決まれば、学校のカリキュラムに導入できると思う。それぞれの自治体が条例を施行している状態である。旭川市も8年になる。条例の中ではカリキュラムの導入まではできない状態である。国で手話言語法を採択してくれた場合は、移行することができると思う。担当省庁がそれぞれ違うので、今はその動向を伺っているところである。東京の大学でのカリキュラム導入は単独で取り組んでいる。旭川では旭川医科大学で手話の選択授業が取り入れられていて、実際に手話を教えている。
	会長	(旧) 旭川大学短期大学部で昔、介護福祉士の養成課程でF委員に非常勤講師で来ていただいたことがある。
A 委員	今の提案は国へ提案してほしい。	
会長	事務局から何かあるか。	

	事務局	本日の審議内容を踏まえ、今後の取組を進めていく。
	会長	本日の会議の議事録確認は橋本委員にお願いする。
	事務局	(閉会)